日伯新聞
伯國聖市マエストロ・カルチン街一六番（ヴエルゲイロ街一五八）
發行所日伯新聞社
本紙定價年壱ミル
外國郵税共百ミル

S. Kobayashi
R. Galvão Bueno

上海中部戰線

強引な激戰の成果

敵陣地、次ぎ〳〵覆滅
日章旗上り士氣冲天
敵の精鋭十万、南翔を死守

（上海卅一日同盟）上海中部戰線の敵は南翔を死守すべく中央軍の精鋭約十個師、總勢十万の大軍で我が猛攻を阻まんと必死となつてゐるが、我が〇〇部隊は砲兵、騎兵、歩兵各軍の精鋭をすぐり一歩一歩これに壓迫を加へ卅一日朝南翔死守の第一線北方三百米の地點を中心とする十キロの線に肉薄激戰中で敵陣地は一個一個覆滅日章旗上り全軍の士氣既に敵を呑んでゐる

（眞茹卅一日同盟）安達部隊麾下道柴部隊は舍家宅奪取後細見部隊戰車〇臺の協力の下に馬路灣の敵陣に攻撃を加へ、何ら損傷なくして午後四時之を完全に占據、更に敵大部隊を追撃しつゝあり、南翔占領は眼前にある

【眞茹卅一日同盟】百田部隊は卅日朝來武者振り凄く京滬鐵道を占據の後、同夜半更に西沙吳宅の敵を撃退したが、一日朝細見部隊の掩護下に黎明を衝いて江橋鎮攻略の火蓋を切つた

悽慘！激戰の跡

【眞茹卅一日】安達部隊は卅日午後舍家宅を攻略の後、間髪を入れず折柄降り出した肌寒い冷雨を物ともせず、敗走の敵を追撃、卅日夜半その麾下部隊は楊家宅を强行奪取しが、これは何れも前面にクリークを控へた堅陣で前面突破不能と見た藤田部隊長は二百米西方の堅壕の敵陣地を目指しつゝ大膽な敵前横斷をなし一擧に目的陣地の背後に突入した、この剛膽な荒獅子部隊の奮戰に鐵立つた淺間部隊、堀内部隊はクリークを敵前渡河し喚聲を揚げて東方より突貫、逃ぐる敵に殲滅的打撃を與へたのち午後六時兩部落を占據した、この戰車隊の敵前横斷戰は上海戰中でも最も激戰だつたと

【上海卅一日】淺間部隊は郭家宅西方部落を頑守した敵第十四師の精鋭軍を二時間に亘つて猛撃の結果、卅日午後遂に之に殲滅的打撃を與へ、敗走の敵を追つて北方に連なる金家宅をも一擧に拔き卅一日早朝更に〇〇部落の攻撃を開始した

【上海卅一日同盟】藤田戰車隊は淺間部隊の前進を掩護すべく卅一日午前十一時秋雨煙る泥濘の道路を物ともせず南翔西方五キロ餘りの要害竹園の敵を追撃、卅日夜半その麾下部隊は楊家宅を强行奪取しが、これは何れも前面にクリークを控へた堅陣で前面突破不能と見た藤田部隊長は二百米西方の堅壕の敵陣地を目指しつゝ大膽な敵前横斷をなし一擧に目的陣地の背後に突入した、この剛膽な荒獅子部隊の奮戰に鐵立つた淺間部隊、堀内部隊はクリークを敵前渡河し喚聲を揚げて東方より突貫、逃ぐる敵に殲滅的打撃を與へたのち午後六時兩部落を占據した、この戰車隊の敵前横斷戰は上海戰中でも最も激戰だつたと

【上海卅一日】淺間部隊は郭家宅西方部落を頑守した敵第十四師の精鋭軍を二時間に亘つて猛撃の結果、卅日午後遂に之に殲滅的打撃を與へ、敗走の敵を追つて北方に連なる金家宅をも一擧に拔き卅一日早朝更に〇〇部落の攻撃を開始した

我戰車隊、獅子奮迅
クリークを控へた堅陣を拔き、敵陣背後に敢然突入

【上海卅一日同盟】藤田戰車隊は淺間部隊の前進を掩護すべく卅一日午前十一時秋雨煙る泥濘の道路を物ともせず南翔西方五キロ餘りの要害竹園の敵を追撃、卅日夜半その麾下部隊は楊家宅を强行奪取しが、これは何れも前面にクリークを控へた堅陣で前面突破不能と見た藤田部隊長は二百米西方の堅壕の敵陣地を目指しつゝ大膽な敵前横斷をなし一擧に目的陣地の背後に突入した、この剛膽な荒獅子部隊の奮戰に鐵立つた淺間部隊、堀内部隊はクリークを敵前渡河し喚聲を揚げて東方より突貫、逃ぐる敵に殲滅的打撃を與へたのち午後六時兩部落を占據した、この戰車隊の敵前横斷戰は上海戰中でも最も激戰だつたと

【上海卅一日】淺間部隊は郭家宅西方部落を頑守した敵第十四師の精鋭軍を二時間に亘つて猛撃の結果、卅日午後遂に之に殲滅的打撃を與へ、敗走の敵を追つて北方に連なる金家宅をも一擧に拔き卅一日早朝更に〇〇部落の攻撃を開始した

敵前渡河成功

【上海一日同盟】敵が上海方面の大綱を捨てゝ江橋鎮攻略の火蓋を切つた、楊家宅は南翔の前衛陣地に夜を徹して猛攻を續けてゐる散亂し、凄慘な激戰の跡を物語つてゐる

平漢戰線を天翔る無敵陸軍機

海の戰血の戰錄

月下・甲板は唐紅
彈雨を浴び錨作業
吳淞上陸に殊勳輝く三驅逐艦

世界戰史に不朽の一頁を殘した八月廿三日の吳淞敵前上陸に海陸協同作戰の武勳を擧げた先遣部隊「潮」「臘」「天霧」三驅逐艦の苦闘と、海の江上に猛烈な交戰を展開し、午前一時半、吳淞橋の敵前上陸に時に

「潮」「臘」「天霧」三驅逐艦は「潮」は僚艦「臘」「天霧」と共に命令一下吳淞敵前上陸先遣部隊の輸送艦たる名譽と重任に全員勇躍潮流を蹴つて同夜黄浦江を溯江、深更楊樹浦亞細亞公司對岸に假泊した、早くも敵はわが姿を認めて野砲陣地の機銃陣地が一齊にわめき立てわが三艦も砲門を開いて月明達が決死の勇戰を物語る凄烈な「血戰錄」廿二日〇〇した八月廿三日の吳淞敵前上陸に海陸協同作戰の武勳を擧げた先遣部隊の「潮」「臘」「天霧」三驅逐艦の苦闘と、海の江上に猛烈な交戰を展開し、午前一時半、吳淞橋の敵前上陸に時に

陸を敢行すべく輸送隊は月光を浴びて肅々と江を下つた、だがその成否は先遣隊の奮戰に俟たなければならぬ、全員悲壯な決死の覺悟で刻々敵に近づいて行つた、めざす吳淞は眼前だ、敵の亂射はますます猛烈をくはへて「潮」が〇〇丸に横付けしようとすると

ろはもう味方打ちの危險で艦つたの大砲も機銃も打てない、敵了は、五十米の近距離からわが艦上を狙撃して來る、彈雨を浴びての錨作業、横付作業を完了しなければならない、錨入れられた、敵はこの時とばかりに勢ひたつて無抵抗のわが前甲板の錨作業員目がけ前から機銃掃射

目の前

をつづける、この彈丸ぶすまの中で決死の作業はつづく、前甲板作業員はバタ〳〵と斃れる

「錨鎖を伸ばせ！」「纜索を向ふに渡せ！」機銃は何處へやつたか！「そこに中田が摑んだ儘斃れてゐるぞ！」「アツ！やられた…」「畜生殘念！」

悲痛な叫びが銃砲火の轟音にまじつて甲板上に飛ぶ、永かだ、積載に二時間もかゝつた荷物を彈雨の中でたつた卅分で〇〇丸に移してしまつた、かうして成功したのだ

上陸

は終つた、こんとは全員荷揚げ

【上海卅一日同盟】南翔前面の突角陣地、廣福による敵軍は我が戰車隊によりその東端を一齊蹂躙されたにも拘らず

南部戰線

【上海卅一日同盟】戰備を完成、敵陣〇〇を目指して待機中の上海南部戰線の我が軍は本日正午秋雨を衝き砲兵、工兵の協力下に敵が最後の陣地と恃む蘇州河の敵前渡河を一氣に敢行した、見事渡河を完了するや猛攻撃中である、一方陸海航空部隊は地上部隊に協力、蘇州河南岸地區の敵陣に猛撃を加へつゝあり、秋雨煙る中に彼我の砲聲物凄く江南の天地をゆるがしてゐる

煙る秋雨を衝いて
砲聲天地を搖がす
金城鐵壁、蘇州河の防備崩る

【上海卅一日同盟】戰備を完成、敵陣〇〇を目指して待機中の上海南部戰線の我が軍は本日正午秋雨を衝き砲兵、工兵の協力下に敵が最後の陣地と恃む蘇州河の敵前渡河を一氣に敢行した、見事渡河を完了するや猛攻撃中である、一方陸海航空部隊は地上部隊に協力、蘇州河南岸地區の敵陣に猛撃を加へつゝあり、秋雨煙る中に彼我の砲聲物凄く江南の天地をゆるがしてゐる

【上海卅一日同盟】敵が上海方面の最終陣地とし金城鐵壁を誇つた蘇州河南岸の陣地の一角も卅一日朝來開始された我が壯烈果敢な敵前渡河戰で脆くも崩れ、我が軍は凡ゆる困難を克服し、更に敵を猛攻、彼我の砲聲夜に入るも熾め、攻撃その他に拂つた苦心と犧牲は渡河作戰以上のものであつた

水も洩らさぬ
歩砲兵、空軍の聯携

【上海卅一日同盟】應森、石井各部隊の卅一日に於ける蘇州河渡河攻撃に際し、我陸軍砲兵、空軍の水も洩らさぬ聯携の賜である

【上海卅一日】繞家橋、郁家宅等の各部落に猛撃を加へ、

日本料理

見事誘導作戰極る
腹背挾撃の敵、周章狼狽

【上海卅一日同盟】南翔攻略に躍進を重ねる和知部隊は京滬鐵道北方無名部落から范家宅の我陣地に對し線路越しに攻撃する敵を撃滅すべく、卅一日早曉坂口部隊をして砂砲彈を發見した

日本料理は眼で喰ふ部分が八分で舌で味はふ部分は二分だ、下々の家庭で喰ふ物は別として、苟くも料理と名の付くものは無論と飾り立つてあつて、滋養とか味覺とかは二の次三の次とされてゐる、私は幸に盲目でなかつたから

日本みやげ
（30）
三浦生

一通り喰つてみたが若し盲目であつたら、日本料理なんて味も素ッ気もないものと思つたにちがひない、只前にも云ふ通り食料査證の

宴會の料理

遺憾ながら

のか知らぬが、恐らく支那へ再輸出されるものだらう何ぼ何でも日本人まさか牛馬のチン〳〵を喰べるやうなことはあるまい

話元へ戻り、日本人が非常な憧れを持つてゐる日本食も鰹節から云へば

西洋諸國のそれに比して大いに劣つて居る、馬鹿の三杯汁、天井のうつる樣な味噌汁を何杯吸つても、コツテリしたスープ一杯には追付かない、外國から日本に歸つて困るのは、實會だ何だで物の三日も純日本食を喰はせられると、何だか骨離れがしそうな氣がしてならない、だか鳥なども明けても暮れても鰹節、天プラだ、スキ燒だと喰ひ廻つて居た、スキ燒は西洋人の口にも合ふとみえて、能く銀座の松喜あたりで筆を動かしてる外國人を見受けた下手な西洋料理よりこの方が遙かに旨いと云ふ譯なのである、實際日本の西洋料理はまだなつちよらん、一流どころのホテルやレストランでは兎も角も

佛蘭西式だ

何だと眞似ては居るが、何と云つてもマンテーガを使ひ惜むので、普通市中の西洋料理なんて喰へたもんじやない、先に日本料理の量の少いことを書いたが、日本の西洋料理も馬鹿に量が少い、殊に大阪あたりの洋食ときては丸でお雛樣のママゴトみたいな物しか喰はせない

× ×

月下・甲板は唐紅
彈雨を浴び錨作業
吳淞上陸に殊勳輝く三驅逐艦

時に

午前一時半、吳淞橋の敵前上陸に時に

陸を敢行すべく輸送隊は月光を浴びて肅々と江を下つた、だがその成否は先遣隊の奮戰に俟たなければならぬ、全員悲壯な決死の覺悟で刻々敵に近づいて行つた、めざす吳淞は眼前だ、敵の亂射はますます猛烈をくはへて「潮」が〇〇丸に横付けしようとすると

上陸

は終つた、こんとは全員荷揚げ

【上海卅一日同盟】南翔前面の突角陣地、廣福による敵軍は我が戰車隊によりその東端を一齊蹂躙されたにも拘らず

北部戰線
敵の線も早く足逃

【上海卅一日同盟】我が海軍部隊を配し福建、南部方面の防備を堅め新鋭飛行隊も既に派遣して某地に待機せしめてゐるといはれるが黄濤は「予は最後の一人となるも厦門を死守すべし」と豪語し旺んに抗戰熱を煽つてゐる、これがため厦門市内は混亂狀態に陷つて市民の逃避するもの續出し、支那人でも態度怪しと見られるものは續々極刑に處せられつゝあり恐怖政治を現出してゐる、なほ鼓浪嶼にある各國領事館は早くも厦門に戰火發生の際の方針につき協議中である

恐怖政治を現出
厦門大混亂に落つ
盲蛇の敵軍防備に狂奔

「香港卅一日同盟」我が海軍の金門島の占領以來余漢謀は厦門防衛司令黄濤を激勵して厦門等の防備を嚴重にすると共に泉州、同安等の各地に大

【上海卅一日同盟】我が陸戰隊の降服勸告を肯んぜず英國兵警が區域に隣接の一倉庫に抵抗を續けてゐた支那軍四百は午前二時早くも死體を殘して三百は英國守備地域に入り込み武裝解除された

その後判明するところによれば籠城中英國側より食糧補給し居り、租界逼入に當つて英國側はトラックの用意までしてゐたと判明英國側の奇怪な態度は我が方を憤激せしめてゐる

正太線の我が軍
太原目指し驀地

【天津卅一日同盟】破竹の勢を以て陽泉を占領した小林、鯉泉、平定を奪取、前進を開始日午前辛興鎮を占領したが、森本などの諸部隊は卅一日夕刻陽泉西方二キロの地點に抵抗する敵を粉碎、破竹の勢をもつて太原目指して西進中

【天津一日同盟】正太線陽泉、平定を奪取、前進を開始日午前辛興鎮を占領したが、森本などの諸部隊は卅一日夕刻陽泉西方二キロの地點に抵抗する敵を粉碎、破竹の勢をもつて太原目指して西進中

【天津一日同盟】破竹の勢を以て陽泉を占領した小林、鯉泉、森本などの諸部隊は卅一日午前辛興鎮を占領したが、方二キロの地點に抵抗する敵の戰鬪に於て機關車七、貨車七十三その他多數の消耗品を鹵獲凱歌を奏した

敵兵の據る豐田紡績は火を發し蒼々たる黑煙を吹上げて炎煙し始め、蒼々たる黑煙は西部上海の空を蔽つてゐる、我が猛撃により正午砲兵隊も猛烈な砲撃を以て之に協力、殷々たる砲聲は秋雨燒し始め、蒼々たる黑煙は西部上海の空を蔽つてゐる

クリーク一本を賴む
敵陣に一齊不意打ち
戰車隊、一角を蹴散す

【上海卅一日同盟】南翔前面の突角陣地、廣福による敵軍は我が戰車隊によりその東端を一齊蹂躙されたにも拘らず

【上海卅一日同盟】南翔前面の突角陣地、廣福による敵軍は我が伊佐、諸住各部隊は肉彈隊と相呼應して包圍態形を稍々完成したので今や廣福の敵の果敢な猛撃を加へること十七時間、この間廣福側面の新陣地の潰滅も目睫に迫り我が木橋、丁家宅、楊陸宅等の各軍の士氣は愈々旺なものがあ陣地を次々に占據してゐる

強固な陣地を恃りとして意外に頑强に抵抗しつゝあるが、〇〇方面に行動中の倉林部隊と相呼應して包圍態形を稍々完成したので今や廣福の敵の有力陣地で南翔防護のため無數のトーチカを築き塹壕には一尺の角材を積重ねた上に三段にレールを積み更にその上に二米

巨大な戰車壕備へた
廣福のトーチカ陣
大場鎮に次ぐ堅壘

【上海卅一日同盟】りう家行西方約四キロの廣福は大場鎮にも匹敵すべき敵軍の有力陣地で南翔防護のため無數のトーチカを築き塹壕には一尺の角材を積重ねた上に三段にレールを積み更にその上に二米

乃至三米の厚さに沿土を固めてゐる、それと連絡して縱橫に無數の交通壕が掘られ巨大な戰車壕すらも築かれてゐるが、ひた押しに押し寄せる我軍の前にはこの堅陣も今や風前の燈となつてゐる

農家の戰友……
獨乙製噴霧器
プラッツ（攪拌器付）
精巧・堅牢・無比
…名…
…聲…
天下に冠たり
先づ良品の御撰擇が肝要です……
◈御注文は出張員
◈又は直接本社へ
直輸入　日伯社
營業部

無敵!!
農家よ、安んぜよ！
この農藥品の効果に!!
國產
アルセニアット・デ・シユンボ
（礒酸鉛）
は赤刷レッテル貼付の本社販賣品を……
◈第注文は五十キロ（一樽）以上
多量御購入の方には
特別の御相談に應じます
……本社出張員又……
……は直接本社へ……
工場　日本農藥株式會社
販賣所　日伯社營業部

九國會議は何處へ行く?

三日愈よ開幕

英米で會議をリード 早くも休戰案を合議

伊國外相の出席沙汰止み

【ブラッセル卅一日同盟】九國條約會議は愈よ三日に迫りブラッセルに於ける各國代表間の往復は漸く緊張を加へて來たが、何といつても會議の指導者は英米兩國で、これを佛蘭西が支持各國を引つ張つて行くものと豫想される、米國代表部は卅一日AP特派員に對し、英米兩國は急速に日支間の休戰を持來たすため意見の交換を行つてゐる旨を洩らしたといはれる、各國代表部間の空氣を綜合するにその態度著しく軟化し、公開の會議に於て日支兩國間の休戰を纏めることに成功すれば、後は第三國は手を引き日支兩當事國代表が何處かブラッセル以外の土地で會議を開き、和平條件を相談することゝなるのではないかとAP特派員は觀測してゐる、一方伊太利政府が會議の主席代表としてチアノ外相の派遣を取止めたことは會議關係者に失望を與へてゐる

獨乙の不參加で 英米間に確執

ケチついた九國會議

【ブラッセル卅日UP】獨逸は會議招請狀を豫め獨逸並に伊太利に送付したが、獨逸は會議に參加拒絶を通告し、ソ聯の內諾を得た上、開催と同時に送付きるべきだつたといふに對し、英國側は招請は卽刻行はるべきで今回ベルギー政府の執つた態度は當然だとしてゐるが、何れにせよ獨逸政府の參加拒絶に會つて九國會議は當初からケチをつけられその効果を殺いだものとして米國側は甚しく不滿の意を洩らしてゐる

支那先づ提議せよ 我から停戰など眞ッ平

東朝、歐米製風說を粉碎

【東京一日同盟】卅一日の東朝は「支那先づ提議すべし」と題し左の要旨の社說を掲げてゐる

本社華府特電によれば「米國を始め支那に利害關係多き列國は日本に停戰の意ありとの報道を歡迎し、若し事實ならば九國條約會議の當初に於て支那側に和解を勸告することにならう」とあるが、これは日本から停戰の弱音を吐きだしたようで、現下の情勢から支那を救はんとする甚しく偏頗な策謀から來るものでこの風說が現はれたのは九國會議の前夜に於て免れない現象と思ふが、それよりも上海に於ける日本の大勝により支那側大官が泣言を並べ外國通信員を引見して列國干涉の必要を力說してゐること、巴里駐屯の某支那高官がAP特派員に對し、支那はブラッセル會議に於て條件次第では日本と和平交涉に應ずる用意ある旨を洩らしたことなどから見ても明瞭である、併しその反面に於て蔣介石は上海の敗戰は戰略的撤退で支那は更に五ヶ年間戰爭に耐え得ると强辯し、又某大官の談話の中には列國を操縱して日本を牽制しようとする外交的術策が藏されてゐることが明白に看取される、だが支那が李鴻章の故事に倣つて列國の干涉を誘導しようとする古い手口を弄すとも抗日政策の轉換を行はざる限り日本は到底これを容認し得ない、故にこの際列國にして若し支那に援助の勞を取らうとすれば先づ支那をして停戰を提議せしむるべく支那に勸告することが先決問題である

敵前米の濁流に 人梯子の突擊路

―彈雨下に水浸りの一時間― 決死、工兵三十勇士

去る九月十四日我が石井部隊が揚行鎭西南から頑强に抵抗を續けてゐる敵の堅壘目がけて進擊するに當り工兵柳澤部隊長の指揮する決死の敵前渡河作業班三十勇士が

敵前 三十メートルの濁水、肩を浸するクリークに竹梯子を作つて身を浸すこと一時間餘、敵彈雨飛の中を自ら人の梯子を作り恰土部隊長の指揮する歩兵突擊隊〇〇名を見事渡河せしめたことが判明し〇〇部隊長以下全將士を感激せしめてゐる

恰土部隊はその日午後五時までに大家宅の敵陣地を占領すべくこれよりさき午後二時半を期して攻擊準備に移つた、これに協力を命ぜられたのは工兵柳澤部隊長である、大家宅の前方には幅廿五メートルのクリークが橫たはつてゐる、折柄水が最も淺い干潮時だ、まさに絕好の機會である

柳澤部隊長の命令一下、渡河作業班の三十勇士はおの〳〵十五名づつ二班に分れて二つの長竹梯子を擔ぐで敵前に躍り出した、クリーク對岸の敵は

異樣 なかたちをしたこの竹梯子を爆破材料と勘違ひしたものらしい、大狼狽で一時第一線陣から後退した、そこをすかさず渡河班の勇士は二手に分れ左有後方からざんぶとクリークの濁水に飛込んだ、敵は渡河班の擔つて來たものが橋梁材であることが分ると再び前進機關銃の猛射を浴びせかけ手榴彈を投げつける、干潮時のクリークでも意外に深く水は頭まで沒する、梯子はクリークの幅よりも三、四尺短く兩岸に達しない「おい人梯子だ」決死の勇士はクリークの中に飛込む

聖市日會條件づきで ブラジル 中央日會を承認

多羅間會長調停に乗出す

中央日會騒動劇終幕

去る九月末日本人會も、聖市日會の「加入拒絶」の爆弾聲明によつて波亂を卷き起したが、これに對しバウル管内聯合日會では飽迄聖市日會の存立を是認し、都市と内奥地の對立化して來た感情のでこのまま放置して置いては重大問題惹起の虞れありとして初代會長に推された多羅間鐵輔氏は自發的に調停の役を買つて過日來出聖、聖市日會に對し地方の意志を通じ圓滿解決方を交渉中であつたが、聖市日會では

NIPPAK SHIMBUN

Diario Nipponico de maior circulação no Brasil

Anno XXIII — São Paulo — 3.a-feira, 2 de Novembro de 1937 — Num. 1.246

NIPPAK SHIMBUN

PROPRIETARIO
SACK MIURA

DIRECTOR Masaaki Udihara — GERENTE Alfredo Takeuchi

Redacção — Administração e Officinas
Rua Maestro Cardim, 169
Telephones: 7-3325 e 7-3326
Caixa Postal, 375
Endereço Telegraphico: "Nippak"
SUCCURSAL:
Rua Conde do Pinhal, 154
Telephone 2-3926
SÃO PAULO — Brasil

Assignaturas
PARA O BRASIL
Por anno ..... 30$000
Por semestre ..... 16$000
Numero avulso $500
PARA O EXTERIOR
Por anno ..... 0$000

Annuncios
Temos á disposição dos interessados uma tabella completa de preços para annuncios nesta folha

A recusa do governo do Reich para tomar parte na Conferencia de Bruxellas

Berlim, 29 (Domei) — O governo allemão respondeu officialmente ao de Bruxellas, recusando-se a tomar parte na Conferencia das Nove Potencias. A resposta é a seguinte, em resumo:

"Julgamos não poder tomar parte na Conferencia das Nove Potencias, convocada de conformidade com o artigo 7.° do pacto respectivo, pois a Allemanha não é signataria do referido pacto. Entretanto o governo allemão declara que está preparado para cooperar nas acções tendentes a conduzir a uma solução pacifica o actual conflicto entre o Japão e a China.

A Italia tambem recusará?

Berlim, 29 — Domei — O governo italiano acceitou o convite do governo belga para tomar parte na Conferencia das Nove Potencias, mas, ao que consta, está disposto a recusar a sua participação na alludida conferencia no caso de a U. R. S. S. participar della.

Será creada uma legação japoneza na Africa do Sul

Tokio, 26 — Domei — Para estreitar mais as relações de amizade entre o Japão e a Africa do Sul, ficou definitivamente resolvido crear uma legação do Imperio em Pretoria (Africa do Sul). Foi nomeado para representar o Imperio neste logar o sr. Oka, consul em Capetown.

As companhias de seguros sobre a vida apoiam a politica financeira do governo

Assumindo o encargo de subscrever 100.000.000 yens, annualmente

Tokio, Setembro — O ministerio do Commercio e Industria esteve em entendimento com as companhias nacionaes que operam em seguros de vida, em nosso paiz, no sentido de obter destas o apoio indispensavel aos planos financeiros do governo, no momento actual, equiparado ao estado de guerra. Após accurados estudos, essas companhias resolveram acceder ao appello patriotico do governo, assumindo o encargo de subscrever, annualmente, titulos de divida publica no valor de ..... 100.000.000 yens (500.000 contos de reis). O encargo ora assumido pelas principaes companhias de seguros representa um sacrificio não pequeno, pois, os juros dessas dividas não são compensadores.

Execuções na Russia Sovietica

Moscow, 25 - Domei - Todos os adversarios de Stalin serão executados antes do dia 7 de Novembro, data commemorativa do 20.° anniversario da revolução.

Conforme noticias da agencia D. N. B., no dia 25 foram executadas mais 30 pessoas. O total dos executados na presente semana são em numero de 223.

Ainda a questão da falta de praças maritimas

O apoio das classes interessadas

Tokio, Agosto — Já tivemos occasião de communicar que o governo concedeu a cabotagem aos navios estrangeiros e aos que teem o seu domicilio em Kwang-Tung, afim de supprir a falta de praças verificada nestes ultimos mezes, principalmente depois do inicio do conflicto nippo-chinez. Resolvido, em parte, o problema, no que se refere ao transporte das mercadorias nos mares proximos, resta, todavia, a questão da falta de praças entre os portos de comercio exterior. O encarecimento das tarifas maritimas é inevitavel, se uma medida opportuna não fôr tomada de antemão.

Ao que estamos informados, o governo convocará as partes interessadas, afim de instituir, com a collaboração das mesmas, um orgão autonomo adequado a controlar as questões e decidir as pendencias resultantes da falta de praças, que será amenisada em grande parte.

"Recuo estrategico"

Os chinezes procuram explicar a derrota a seu modo...

Tokio, 30 (Domei) — Segundo informações fidedignas aqui recebidas, o recuo geral do exercito chinez na frente de Shanghai, causou enorme abalo em Nankin e no Sul da China, sendo enorme o pannico popular. Em Shanghai os chinezes perderam completamente a cotação. A "Sociedade Pró-Salvação Nacional", afim de evitar maiores abalos na psychologia popular, publicou o seguinte communicado:

"O recuo das nossas forças na frente de Shanghai é um recuo estrategico, não havendo consequencias no conjunto das operações."

A exportação de tecidos de algodão para as Indias

Tokio, Setembro — Para o 2.° periodo deste anno, que se inicia em outubro p. vindouro, verificou-se uma insignificante modificação nas porcentagens distributivas de tecidos de algodão a serem exportados para as Indias. Assim é que os tecidos terão a sua porcentagem augmentada para 13%, ao em vez de 11,3% que é deste periodo. Os fios de côr serão, pelo contrario, reduzidos para 17%, quando a porcentagem no periodo em curso é de 18,7. Quanto a outros pontos, inclusive a exportação para a Birma, não houve modificação notavel, sendo mantidas as clausulas convencionaes ora em vigor.

O embaixador yankee no Japão preconisa a neutralidade americana

Concord, 24 — Domei — O embaixador dos EE. UU. junto ao governo japonez, sr. William Cassel fallando sobre o conflicto nippo-chinez, insistiu que a attitude mais justa e conveniente aos EE. UU. deve ser a de neutralidade. Com essa attitude os EE. UU. demonstra a sua compaixão, e crea uma attitude de conveniencia aos belligerantes.

Será que os EE. UU. poderão condemnar a acção dos japonezes, para apoiar a politica ou a acção do outro? E' difficilimo resolver sem parcialidade, qual dos dois está com a justiça. A attitude do governo deve ser ou da neutralidade ou de apoio a uma das partes; não haverá meio termo. Apoiar um dos dois significa guerra.

O governo precisa quanto antes mudar a sua actual attitude e tomar uma attitude de neutralidade seguindo a sua velha politica isoladora.

Isto de apreciar o caso com parcialidade pode causar uma catastrophe de graves consequencias.

E' preciso que o governo, antes de definir-se, medite e estude bem o seu passo a dar.

Contra a hypocrisia ingleza

Movimento pró ruptura das relações nippo-britannicas em Tokio

Tokio, 30 — A Agencia Domei annuncia que mais de 100 membros da Dieta e as mais altas personalidades industriaes se reuniram sob a presidencia do sr. Yamamoto, chefe do Partido "Seyukai", votando por unanimidade uma resolução em que se denuncia a attitude britannica em relação ao conflicto com a China e em que se suggere organizar uma campanha visando a ruptura das relações com a Grã Bretanha.

Foi elaborado tambem um manifesto no qual se affirma que desde o inicio das hostilidades, a Grã-Bretanha não observa uma attitude de neutralidade, mas presta assistencia á China. Pretendem que o governo britannico guarda em relação ao Japão uma attitude "altamente insultuosa" e accusam a Grã-Bretanha de intrigas para a intervenção das potencias e de "pressão sobre o Japão pela reunião da Conferencia das 9 potencias" convocada, conforme diz o manifesto, "pela Sociedade das Nações por inspiração britannica". O manifesto accrescenta: "O Japão foi sempre fiel á amizade tradicional com a Grã-Bretanha desde o Tratado de Alliança, agora caduco, mas vê presentemente esgotada sua paciencia. A acção britannica foi decidida para encorajar e facilitar a bolchevização da China e a resistencia anti japoneza o que contribue para retardar a paz. O Japão encontra-se agora em presença de um inimigo mascarado que se occulta atrás da China. Lamentamos ser obrigados a declarar que o Japão será obrigado a tomar uma grave decisão contra a Grã-Bretanha e cessar de manter com ella as velhas relações de amizade se não sobrevier rapidamente uma modificação de sua situação actual".

ESPORTES

A brilhante victoria dos japonezes sobre os yankees

O que foi a prova dos 400 ms. vencida por Makino

Estiveram ha pouco tempo no estadio historico e pitoresco de Meiji, em Tokio, nadadores americanos de grande projecção nos meios esportivos mundiaes. Deve-se salientar entre outros o grande e conhecido nadador Medica, que é campeão olympico dos 400 mts. e recordista do mundo na mesma prova. Outros nadadores de renome como Keifer, Root, faziam parte desse encontro. Não é de admirar pois, que tenha attrahido esta competição uma grande multidão que invadiu o amplo estadio de Meiji.

Todas as provas mereceram as mais enthusiasticas acclamações, devendo-se salientar a extraordinaria victoria do nadador japonez Makino sobre o campeão olympico e mundial Medica.

Nessa prova de 400 mts., de que sahiu vencedor Makino, tomaram parte os seguintes nadadores: Medica, campeão olympico; Suguiura, sobre o qual se repousavam as esperanças dos japonezes: Uto e Makino, respectivamente 2.° e 3.° nos jogos olympicos de 1936 e Terada, campeão olympico de 1.500 mts.

Até agora os japonezes tiveram que inclinar-se perante a superioridade dos yankees nesta prova.

Como decorreu a prova dos 400 mts.

Sugiura o mais rapido partiu na ponta. Aos 100 mts. Terada tomou a dianteira, seguido por Sugiura, Medica. Medica esforçou-se, e nos 200 e 300 mts. conservou se na dianteira sendo seguido por Terada e Sugiura.

Nos 350 mts. Medica e Sugiura fizeram a volta juntos, e Medica iniciou então a sua famosa arrancada, tendo já a victoria nas mãos. Neste ponto inesperadamente, viu se surgir Makino, que estava sempre nos ultimos logares, numa fulminante velocidade.

Distante cerca de 20 metros da chegada, Makino e Medica corriam na mesma linha, lutando ferozmente, até que na chegada Makino foi declarado vencedor por batida de mão.

Outras provas interessantes houve, como por exemplo, os 100 mts. nado de costas cujo vencedor foi o invencivel nadador norte-americano Keifer.

Os resultados geraes da competição

Nado livre

100 mts. — 1.° Arai, tempo 58"4; 2.° Kataoka; 3.° Sasaki.

200. mts. — 1.° Arai, tempo 7'14"2; 2.° Sugiura; 3.° Miyano.

400 mts. — 1.° Makino, tempo 4'50"8; 2° Medica; 3.° Sugiura.

1.500 mts. — 1.° Takahashi, tempo 19'37"2; 2° Tanaka; 3.° Honda.

Nado de peito

100 mts. — 1.° Koike, tempo 1'13"6; 2.° T. Hamuro; 3.° S. Hamuro.

200 mts. — 1.° T. Hamuro, tempo 2'40"4; 2.° Koike; 3° Honda.

Nado de costas

50 mts. — 1.° Keifer, tempo 30"4; 2.° Kojima; 3.° Yoshida.

100 mts. — 1.° Keifer, tempo, 1'07"; 2° Yoshida; 3° Kojima.

Festival litero-musical da L. E. N. B.

Commemorando o terceiro anniversario de sua fundação a Liga Estudantina Nippo-Brasileira organisou um festival littero musical no dia 31, domingo p. findo, no salão da Escola Taisho.

A reunião esteve muito concorrida, estando presentes cerca de 200 pessôas, entre socios da L. E. N. B. e convidados especiaes.

O programma cuidadosamente organisado pela Commissão Organisadora, constando de numeros de canto, piano, danças, "sketshes" etc., agradou immensamente.

A festa transcorreu num ambiente de alegria sadia, mostrando bem o espirito de fraternidade que reina entre os estudantes filhos de japonezes.

Todos os numeros foram intensamente applaudidos e todos quantos ali estiveram presentes foram unanimes em desejar a repetição de reuniões encantadoras do mesmo genero.

製法 日・英・米・加・愛蘭專賣特許

有馬・青山・太繩 三醫學博士 創製

A-O

元疫免核結

しべる恐核結

青年を蝕む結核の暴惡、正に恐るべし

世は結核の治療よりも豫防免疫の時代なり

我が祖國にては軍人、學生官公集團へのA—O豫防注射數四十數万人も算す

各國に於ける結核死亡率
(人口一萬人に付)

	日本	英國	米國	獨乙	佛國
大正十四年(一九二五年)	一九・四	一〇・四	八・七	一〇・六	一五・九
昭和元年(一九二六年)	一八・七	九・六	八・七	九・八	一六・四
同 二年(一九二七年)	一九・五	九・七	八・一	九・三	一七・四
同 三年(一九二八年)	一九・二	九・二	七・九	八・八	一六・五
同 四年(一九二九年)	一九・七	九・六	七・五	八・七	一六・七
同 五年(一九三〇年)	一八・六	九・〇	七・二	七・九	一六・一
同 六年(一九三一年)	一八・六	八・九	六・八	七・九	一五・三
同 七年(一九三二年)	一八・〇	八・四	六・二	七・六	一三・九

年齢別結核死亡率
各年齢階級、昭和五年(人口一萬に付)

年齢	男	女	計
〇—四歳	五・六三	四・九三	五・二七
五—九歳	四・二〇	五・四四	四・八二
一〇—一四歳	六・三九	四・二〇	五・三五
一五—一九歳	三・八九	四・二九	三・八〇
二〇—二四歳	四三・一七	四五・三六	四三・二四
二五—二九歳	三三・〇三	三三・四四	三三・四七
三〇—三四歳	三三・五四	三三・六三	三三・五八
三五—三九歳	八・九八	七・一九	八・一二
四〇—四四歳	八・〇九	四・九二	六・五四
四五—四九歳	一七・七八	一三・五九	一五・一九
五〇—五四歳	一七・六一	一一・九一	一四・七五
五五—五九歳	一七・七九	一〇・四〇	一四・〇三
六〇—六四歳	一六・八二	八・四九	一二・四〇
六五—六九歳	九・一八	四・七七	六・九五
七〇歳以上	八・二六	八・八七	八・八六
合計	八・二六	八・八七	八・八六

A-O 海興 原商會
元伯國總輸入
R. Felippe d'Oliveira, 21 3°. — Teleph. 2-7697
Caixa Postal, 2012 — S. Paulo

地方取次販賣 日伯社營業部
Caixa Postal, 375 — S. Paulo

御用盜異變

武崎伸平 (北富巳郎畫)

【百十】

葛飾くづれ(八)

神谷左近は、寢間の前の廊下に座つて、玄關からのつゝ抜けの悪罵にハラ〳〵しながら、唐紙越しに祖父江の返事を待つてゐた。

「フフ……隊の亂暴者共が來居つたな」

なんと、朝つぱらから上機嫌らしい、祖父江の聲がした。

「あのやうに騒いで居られますが……いかゞ計ひませう」

「ハハハハハ、放つとけ〳〵、そのうちに、勝手に上り込んで來るわい」

「ハ……」

神谷はどうしていゝから判ないで、それでもまだ廊下に

ぢつと座り込んでゐたが、寢間の中からはそれつきり、物音一つしない。

祖父江の推測通り、がやがやと騒いでゐた牧田達は、更に手應へがないのに、業をにやしたのか、

「用人！ 用人！ 取次はどうした？」

「用人！ 遲いぞ！」

「出て來い、早く出て來んと馬田勇治、決闘を申し込むぞッ」

「えーッ、面到な！」

名倉真平がいきなり、玄關へ飛び上つた。つゞいて牧田と赤堀が上るのを見ると、殘りの五名も我後れじとドカドカと玄關から奥へ踏み込んだと、それと出合ひ頭に、女中が三人、淑やかに奥から出て來て、

「どうぞ此方へ」

「やッ？」

祖父江の寢間まで踏み込むでもない——先づ第一の用件は、先日、平右衛門町からかつぱらつて來た女——おひろを、祖父江の獨占にまかしてゐる代償としての酒代の要求、第二に、いよ〳〵近日、京表へ向けて歩兵隊が發足するに就いての用談若干——要するに以上二件だつたのである。

「お殿様、あんなにお騒ぎになつては、お隣り屋敷へ筒抜けではございませんか……」

「フーム、それもさうぢやな……」

七人の女中の中の四人迄を侍らして、祖父江忠士は今朝食を攝つてゐる。色氣の方とそ人一倍だけれど、萬事鷹揚で思ひやりもある好いお殿様——女中達はみんなさう思つてゐるから、なか〳〵にサービスがいゝ。

「遲いのう……」

しびれを切らして、蒔田金之助が大あくびで怒鳴ると、

「全くぢや」

と、闘士新吉も舌打して、

「よし、俺が出迎へて來る！」

「拙者も行く！」

牧田がつゝいて立ち上る。

「よし、俺も」

とう〳〵みんな立ち上つて客間の襖をカラリと開いて、ドヤ〳〵と奥へ踏込まうとした途端——

「騒々しい！」

祖父江が目の前につゝ立つてゐて、一喝した。

「これは、隊長！」

「お早うござる」

牧田等も、面と向ふと、さすがに威壓されない譯には行かない。

アラサツーバ學園 建設寄附
(第九回發表)

▲パウリスタ正三 ▲ルイゾ川内廣次 ▲バイ大宛廣次 ▲野村今朝七 ▲野口七郎 ▲五十嵐

一田中光男 二明治渡邊宛 二安田治本黑治 一〇ルミル部高田 一〇ルミル彌羽留宛 一〇ルミル矢野留渡 一〇ルミル村今井羽 一〇ルミル宛大熊孫一太 一〇ルミル卿廣忠二

一〇ルミル廣田治兼宮崎勘吾 一〇ルミル山本貞次市細井辰 一〇ルミル宛青木 一〇ルミル山口大

一〇ルミル野口定七 一〇ルミル原宛 一〇ルミル宛 一〇ルミル聖マリア學園 一〇ルミル小町

七〇ルミル淺井好彦藏市 三〇ルミル高吉野義郎吉田 二〇ルミル初太郎橋本吉市 二〇ルミル松二郎 二〇ルミル島崎森建田 二〇ルミル友田高 二〇ルミル於羽宛 二〇ルミル永井林 二〇ルミル定保四郎 二〇ルミル喜野於橋 二〇ルミル喜嘉郎 二〇ルミル六吉市 二〇ルミル伊藤建馬

一〇ルミル猛治郎秀 一〇ルミル初久太郎 一〇ルミル平上 一〇ルミル秦井 一〇ルミル森吉 一〇ルミル喜宛 一〇ルミル政 一〇ルミル雄 一〇ルミル義吾 一〇ルミル林 一〇ルミル宛 一〇ルミル政 一〇ルミル宮 一〇ルミル城 一〇ルミル善增 一〇ルミル宛 一〇ルミル初 一〇ルミル喜 一〇ルミル一郎 一〇ルミル宛 一〇ルミル雄 一〇ルミル驛 一〇ルミル中央 一〇ルミル德田 一〇ルミル久 一〇ルミル太富 一〇ルミル平 一〇ルミル秦 一〇ルミル大吉 一〇ルミル森 一〇ルミル政 一〇ルミル喜某 一〇ルミル幸藤 一〇ルミル島 一〇ルミル丸喜 一〇ルミル一島 一〇ルミル西 一〇ルミル德大村 一〇ルミル須田 一〇ルミル金

二〇ルミル東京 二〇ルミル助 三〇ルミル合計 二〇ルミル累計 二〇ルミル精華 二〇ルミル原田日本人會 二〇ルミル喜六 二〇ルミル コンクリート 二〇ルミル三百四十 二〇ルミル也 二〇ルミル 八十拾五 二〇ルミル五百 二〇ルミル也 二〇ルミル正

第八回 二〇ルミル累計 二〇ルミル五十五 二〇ルミル九拾也 二〇ルミル二百 二〇ルミル五十 二〇ルミル一コンクリート 二〇ルミル也 二〇ルミル 訂正表 二〇ルミル 訂正表 二〇ルミル 訂正表